



青葉匂う

四日市市立港中学校通信

平成30年度 第6号

6月25日(月)発行

いよいよ 1学期末テスト

27日(水)～29日(金)の3日間は1学期末テストです。1年生にとっては、初めて3日連続のテストになります。教科も8教科に増えます。不安はあるかもしれませんが、授業に真剣に取り組んでいる皆さんは大丈夫です。わからない内容については、今のうちに、先生や友達に質問してできるようにしておきましょう。2、3年生の皆さんは、これまでの経験を生かし、様々な学習方法を実践して、悔いのないテスト期間を過ごしましょう。



「学校公開日」はいかがでしたか？

6月7日、8日の2日間は学校公開日でした。60名以上の保護者及び地域の方々に参観いただきました。平素の授業参観と違って、自分のお子さんの姿だけでなく、知り合いのお子さんの様子もよくわかります。どの学年においても、授業時間、休み時間、昼食時間、清掃時間などの様子を見ていただくことで、まわりのうわさや評判からではなく、本当の学校の姿を知っていただけたと考えています。

保護者の方々からは、「全般的にとっても落ち着いていて安心しました。」「掃除を隅々まで、一生懸命やっている姿をみて驚きました。」「挨拶を大きな声でしてくれる生徒が多く、うれしくなりました。」など、生徒たちの成長ぶりを評価いただき声をたくさんいただきました。

また、毎年参観していただいている民生委員の皆さんからは、「あいさつがとても良かった。実は家の近所でも元気よくあいさつしてくれる。とても気持ちのいい思いをしている。」と評価をいただきました。

本校は、生徒の皆さんの「より良い学校にしよう」という力で、今以上に良くなっていきます。皆さんの力を期待しています。」

学びの一体化研修会の実施

6月22日(金)に、浜田小学校にて「港中校区学びの一体化」公開授業研究会を開催しました。

小学校と中学校の先生が一同に会し、5年生の国語の授業を参観しました。

その後、6グループに分かれ、「『話す・聴く』態度を身につけ、学び合う子どもを育む」ために、様々な立場や視点から意見を出し合いました。

また、夏季休業中に「自尊感情を育てる学級集団づくり」研修会を行います。

生徒の活躍 おめでとう！！

5/13	第五回三重県テコンドー選手権大会 マッソギ中学生Ⅱ部男子軽量級	第3位	1年:西村太一
6/3	春の多度写生大会	多度町観光協会賞	2年:藤田 結

7月17日(火)～19日(木)は「三者懇談会」

1学期が終了するにあたり、これまでの学習状況、生活状況、部活動状況などについて、担任、生徒本人、保護者の三者による懇談の機会となります。また、夏休みの過ごし方やルールの確認も行います。保護者の皆様には大変ご多忙の折ではありますが、有意義な時間にしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。なお、徒歩や自転車等でお越しください。ご協力ご理解よろしくお願いいたします。

ご紹介します。特別支援学級の介助員として、浅野千晴さんが、6月21日(木)から勤務しています。

特集 「なぜ同じ授業を受けていて差がつくのかな？」

クラスで勉強がよくできる生徒がいて、「同じ授業を受けていてなぜ、あの子是可以するのだろうか？同じことを学んでいるにもかかわらず、差がついてしまうのはなぜ？自分もしっかり勉強しているのになぜ？」こうした思いをしたことは、ありませんか。校長の私も中高校生の頃、何度も何度も思い悩んだことがありました。

生徒の皆さんの中には、「やっぱり頭の構造が違うからな」とか「遺伝だから仕方ない」などと言って、すぐにあきらめてしまう人もいますでしょう。もちろん、生まれながらして優れた天才や遺伝的に優れた人がいることは否定できません。しかし、そのような人は非常に少なく、身近に何人もいるわけではありません。

実は、勉強ができる人とそうでない人の違いは、勉強のやり方なのです。確かに、勉強にはできるようになるメカニズムというものがあり、それに沿えばある程度、誰でもできるようになります。

では、同じ授業を受けていて、差がついてしまう理由は、何なのでしょう？

ある教育研究者が、3,000人以上の生徒を直接指導し、さらに東京大学大学院に6年以上通い、学生に聞き取りした結果、次のようなことが分かったそうです。

それは、「できる子は、勉強時間以外も学んでいる」ということです。つまり、できる子は、「授業」や「家庭学習」の時だけでなく、それ以外の時においても、いつも思考をめぐらせ学んでいると言うのです。

「学び」のタイプは3つに分けることができます。

(1) 授業を受けていても学んでいない人

(2) 授業だけが学びの人(「勉強」の場だけが学びの人)

(3) 寝ているとき以外の日常すべてが学びの人 この3つです。

(1) 授業を受けても学んでいない人とは、ただ椅子に座って、黒板の文字を書き写すだけで、先生の説明や級友の発言にしっかりと耳を傾けない人のことです。そのような人は、先生の雑談の時だけ耳のスイッチが入り、また授業の内容にもどると、再び上の空になって、ただノートに写しているだけの場合がほとんどです。皆さんの中にこのような人はいませんか。中学校生活の多くの時間を占める授業時間をこのように過ごしていたのでは、もったいないですね。

(2) 授業だけが学びの人(家庭学習も含め「勉強」の場だけが学びの人)とは、授業をしっかりと受けて、さらに家では予習復習や宿題など、「勉強」する時間を設け、しっかりと学んでいる人をいいます。このような人は、努力を重ねることによって、学校で比較的上位の成績がとれます。

(3) 寝ているとき以外、すべてが学びの人とは、街を歩いているときも、テレビを見ているときも、人と話をするときも、「勉強」しているという意識がないときでも、五感を使って様々なことを感じたり、気づいたり、疑問を持ったりして、何事も深く考える人のことです。このような人は、思考が活性化し、表現力も身につく、教養が豊かになります。このような人が最もできる人で、皆さんの周りに何人もいます。

家から学校や駅までの間を歩いている場合を想像してください。普通は特別な事故や大きな変化がなければ、なんとなく通り過ぎるところでも、(3)のタイプの人は、多くのことに気づき、そこから考えたりするのです。ですから得られている情報量が(1)や(2)のタイプの人に比べ圧倒的に多くなります。

では、どうすればこのタイプ(3)になれるのでしょうか。

違いは、授業中だけでなく、日常のあり方に大きな差があるわけですから、「気づく楽しさ」「知る楽しさ」「考える楽しさ」を理解する必要があります。しかしそう簡単に、そのような楽しさを理解することはできません。すぐに理解できるかどうかはわかりませんが、次の方法で試してみてください。

それは、「人の意見を聞いて、賛成や反対にかかわらず、自分とは逆の立場で考えたり、考えたことを自分の言葉で発表したりする」ことです。授業でも「別の見方はないかな？」「ほかの方法は考えられないかな？」などといつも多面的に考える習慣を身につけましょう。

そのことによって、人は自然と「気づき→知り→考える」ようになっていきます。これを習慣にすると、物事のとらえ方が変わってきます。今日から試してみてください。

ただし、大切にしてほしいことがあります。それは、他の人が考えて発言したことを、否定しないことです。